

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

- 校風・校是「自由と創造」「日新日進」のもと、生徒一人ひとりが自分の色を輝かせ、全体で虹の架かる学校
- 将来の「大阪」とグローバル化に対応する人材と「大阪の教育」をリードする教員が育つ学校
- 生徒・保護者・地域住民から信頼される学校

【生徒に育みたい力】

- 強靱な知性・みずみずしい感性・品格ある人間性
- 確かな学力（自己実現のための学力、知的好奇心、探究心 等）
- 生きる力（客観的事象分析・問題解決能力、意見表明・プレゼンテーション能力 等）
- 豊かな心（生命・人権の尊重、規範意識、異文化理解、多文化共生 等）
- 社会参加力（社会参加、社会貢献 等）

2 中期的目標

1 確かな学力を踏まえつつ、高い志を育み、進路実現をめざす取組みの推進

(1) 生徒のもつ学力を最大限に引き出す

ア 魅力ある授業の実施

効果的な補助教材の作成、教員の指導技術の一層の向上に努めるとともに、H29年度までに全教科で「Can-do リスト」を作成し、明確な道標を提供する
また、学力向上委員会主導で、生徒のさらなる学力向上を可能とするべく、H30年度までに学校全体として各教科単位で共通した「高津授業メソッド」を完成させる

*生徒向け授業アンケートの項目8・9（内容に興味・関心が持てた・知識や技能が身についた）の平均点（H27：3.23／4点満点）を平成28年度以降も3.2以上で維持する

イ 講習・補習の充実

放課後、土曜日、長期休業中等の講習内容と規模を充実させ、進路実現に向けた指導を行う

*難関国立大学（京都大、大阪大、神戸大）への合格者数（現役生+既卒生/H27：80人）を、毎年80人以上で維持する

*国立大学への現役生の合格者数（H27：162人）を毎年130人以上で維持する

ウ 英語運用能力の向上

英語での授業を基本としつつ、外部試験等を活用し、英語コミュニケーション能力の目標を明確に示すことで、生徒の英語運用能力を総合的に高める

*実用英語技能検定試験2級合格者数（H27：138人）を毎年100人以上で維持する

*TOEFL iBT（チャレンジ）のスコア取得（H27：60点以上2人/34人）を平成29年度までにステージ2（対象人数の10%以上が80点以上、20%以上が60～79点）に引きあげ、維持する

(2) 生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探究心を高める

ア 文理学科「課題探究講座」（文系・理系）の内容のさらなる充実と全校生徒での共有

*文理学科2年生の「課題研究」に対する満足度を高めるとともに、普通科生徒の参加数（H27：約163人）を、毎年150人以上で維持する

イ 創造探究事業（高大連携）の内容の充実

*1・2年生の文理学科の外部連携事業への延べ参加者数（H27：1,339人）を、毎年1,000人以上で維持する

ウ 海外の科学先進校との交流の推進

海外の科学先進校等との交流日数を増やすとともに、共同研究や共同発表会等を実施するなど、交流内容を充実させる

*交流日数（H27年度：9日）を平成29年度までに10日に増加させ、維持する

(3) 進路指導をさらに充実させる

ア 自己実現に向けた体験型進路学習（職場訪問、大学研究室訪問）の充実

1年生は、望ましい職業観・勤労観を育成することを目標に、訪問時のインタビューの精度を高めるとともに、プレゼンテーションの質的向上を図る

2年生は、大学における学問・研究に対する理解促進を目標に、生徒同士が学んだ内容について実施するポスターセッションの質的向上を図る

*1・2年生とも訪問先（H27：1年生63カ所、2年生52カ所）を50カ所以上、生徒満足度（H27：92%）を90%以上で維持する

イ 3年間を見据えたキャリア教育の充実

学校としての進路指導方針（高津進路プログラム：KSP）を確立し、学年の進路指導ホームルームや進路説明会をより系統的に計画・実施する

*学校教育自己診断の進路指導への満足度（H27：生徒87%・保護者78%）を、平成29年度までに生徒85%、保護者80%以上に引きあげ、維持する

2 スクールアイデンティティに基づく、豊かな心の育みと規律・規範の確立

(1) 人権尊重と生徒の社会体験活動の促進

*生徒・保護者向け学校教育自己診断の、人権に関する指導に対する肯定率（H27：生徒85% 保護者81%）を、平成30年度までに85%以上に引き上げ、維持する

*部活動参加生徒による「高津キャラバン隊」の実施クラブ率（H27：100%）を、90%以上で維持する

(2) 規律・規範意識の向上

*年間の遅刻者総数（H27：2,137件）を、平成29年度までに2,000件以下とし、維持する

(3) 生徒の自主的活動の活性化（部活動、生徒自治会活動）

*部活動加入率（H27：88%）を、85%以上で維持する

*記念祭（体育祭・文化祭）における生徒実行委員会（三部会）に参加する生徒数（H27：200人）を200人以上で維持する

(4) きめ細やかな保健指導と教育相談体制の充実

*生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度（H27：75%）を、75%以上で維持する

3 教職員の資質向上と学校運営体制の確立

(1) 教科指導力の向上

*生徒向け授業アンケートの全項目平均値（H27：3.23／4点満点）のさらなる向上に努める

(2) 研修の充実

*教員向け学校教育自己診断の校内研修に関する肯定率（H27：74%）を、平成29年度までに80%以上とし、維持する

(3) ミドルリーダーの育成と経験の少ない教員のさらなる資質向上

*教員向け学校教育自己診断のミドルリーダー育成に関する肯定率（H27：53%）を、平成29年度までに70%以上とし、維持する

(4) 学校の組織的運営

*教員向け学校教育自己診断の各分掌や学年・教科等の円滑な連携・有機的機能に対する肯定的意見（H27：63%）を平成29年度までに80%以上とし、維持する

(5) ICT活用ならびに実験・実習、体験的な教科指導の充実、校務の効率化及び情報共有

*生徒向け学校教育自己診断のICT活用や実験・実習、体験的な教科指導に対する満足度（H27：87%）を、80%以上で維持する。

*教員向け学校教育自己診断の、校務の効率化及び情報の共有に対する肯定的意見（H27：63%）を、平成29年度までに70%以上とし、維持する

(6) 地域に開かれた学校づくりの推進

*生徒による社会体験・貢献活動（ボランティア講座、支援学校との交流、クラブ員によるキャラバン隊 等）をさらに活性化させる

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成28年12月実施分〕	学校協議会からの意見
<p>○今年度も、生徒・保護者の皆様から概ね高い評価をいただきました。経年変化を確認する観点から、今年度も、肯定率80%以上(○)ならびに60%未満(×)の主な項目と認識、今後の課題を記します。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>■生徒【80%以上】</p> <p>○「授業には、ICT機器が積極的に取り入れられている」90%</p> <p>■保護者【80%以上】</p> <p>○「学校は教育方針をわかりやすく伝えており、共感できる」84%</p> <p>○「学習に対する評価は適切で納得できる」81%</p> <p>○「講習や補習は学力向上、進路希望の実現に役立っている」84%</p> <p>■教職員【80%以上】</p> <p>○「授業に実験・実習等体験的な学習が適切に取り入れられている」92%</p> <p>○「本校のカリキュラムは、生徒の進路希望・適性に合っている」85%</p> <p>*今年度も、ほとんどの項目で高い評価をいただきました。とりわけICTの活用については、生徒・教職員ともに肯定的な回答がますます増えています。引き続き、さらなる授業力の向上、より適切なカリキュラムの構築に努めます。</p> <p>【進路指導等】</p> <p>■生徒【80%以上】</p> <p>○「将来の生き方や進路を考える機会が数多く提供されている」80%</p> <p>○「教職員は生徒の進路実現に積極的に取り組んでいる」80%</p> <p>■保護者【80%以上】</p> <p>○「将来の生き方や進路を考える機会が数多く提供されている」81%</p> <p>■教職員【80%以上】</p> <p>○「将来の生き方や進路を考える機会を数多く提供している」88%</p> <p>*進路指導についても、すべての項目で、継続的に高い評価をいただきました。生徒の希望進路実現に向けて、さらに戦略的・効率的な支援に努めます。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>■生徒【80%以上】</p> <p>○「人権を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」80%</p> <p>○「本校の教職員は人権を尊重しており、体罰やセクハラはない」83%</p> <p>■保護者【80%以上】</p> <p>○「人権を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」80%</p> <p>○「クラブ活動は充実しており、活動時間・内容は適切」80%</p> <p>■教職員【80%以上】【60%未満】</p> <p>○「生徒の人権を尊重した指導を行っており体罰やセクハラはない」83%</p> <p>○「本校のクラブ活動は充実しており、活動時間・内容は適切である」83%</p> <p>×「本校の生徒指導方針は、教職員に共有されている」56%</p> <p>×「本校の自治会活動は、活発で適切である」31%</p> <p>*生徒指導についても、昨年度とほぼ同じように高い評価をいただきました。生徒に対して、より高い意識と行動を期待するがゆえに、自治会活動に対する(とりわけ教職員の)評価が厳しくなっていますが、引き続き、高津らしい生徒指導を進め、高評価を取り戻したいと考えています。</p> <p>【学校運営等】</p> <p>■生徒【80%以上】</p> <p>○「SSH、GLHSとして設定されている活動は充実している」85%</p> <p>○「教職員は教育活動に熱心に取り組んでいる」83%</p> <p>■保護者【80%以上】</p> <p>○「本校では、校風・校是を踏まえた教育活動が行われている」88%</p> <p>○「SSH、GLHSとして設定されている活動は充実している」92%</p> <p>○「教職員は教育活動に熱心に取り組んでいる」88%</p> <p>■教職員【80%以上】</p> <p>○「本校の教育活動は、学校経営計画等に基づき、適切に行われている」81%</p> <p>○「生徒のより効果的な学校生活に向け、柔軟かつ迅速に取り組んでいる」92%</p> <p>○「保護者と緊密に連携し、信頼感が醸成されている」83%</p> <p>○「本校の教育活動を積極的にアピールできている」92%</p> <p>*今年度も、学校の適切な情報発信・説明およびSSH・GLHSとしての活動等について、保護者から共感を伴う高い評価をいただきました。教職員の取り組み等をしっかりと見守っていただいていることや、相互の信頼感が再確認でき、本当に嬉しい限りです。より一層の向上に努めます。</p> <p>【その他】</p> <p>■生徒【80%以上】【60%未満】</p> <p>○「高津高校に入学してよかった」83%</p> <p>×「教室・廊下・トイレ等の環境は、学習の場にふさわしい」44%</p> <p>■保護者【80%以上】【60%未満】</p> <p>○「高津高校に入学させてよかった」90%</p> <p>×「教室・廊下・トイレ等の環境は、学習の場にふさわしい」53%</p> <p>■教職員【80%以上】【60%未満】</p> <p>○「本校のアドミッションポリシーは明瞭である」90%</p> <p>○「生徒の個人情報適切に守られている」87%</p> <p>○「生徒や保護者が、気軽に相談できる環境が整っている」83%</p> <p>×「教室・廊下・トイレ等の環境は、学習の場にふさわしい」42%</p> <p>*生徒・保護者ともに「高津高校に入学して(させて)よかった」という回答が安定して高水準でした。素直に喜びを感じます。一方で、トイレ等の環境面は、さらに低い評価となりました。社会状況等との比較の中で、正直、限界も感じますが、できる限りの工夫等を行い、望ましい学習環境の維持に努めます。</p>	<p>第1回(7/24)</p> <p>【平成28年度学校経営計画及び学校評価等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校経営計画に基づく取組みは、中期目標・年度重点目標ともに、概ね順調に進んでいるように感じる。 学習については、高校生にもなれば、最終的にはやはり“自学自習”が大切になるものであり、生徒たちが自らの状況を正しく把握できる機会を用意することが、高校の役割だろう。第2中間考査の導入は、そういう意味で決して生徒の自主性を阻害するものではないと考える。生徒の自学自習に効果的に結びつくよう工夫をしつつ、計画的に進めていただきたい。 「遅刻」に対する指導は、細かいことのように感じられるかもしれないが、社会人にもなれば、一度の遅刻が信頼を根こそぎ失うことにもつながりかねないことや、学校生活においても基本となることだと思うので、さらなる減少をめざして丁寧に進めてもらいたい。 教職員の育成に関しては、素晴らしい先生方がおられることが、やはり学校教育の要だと思う。社会状況自体が急速に変化していく中、単にこれまでの前例踏襲的なインプットにとどまらず、経験の少ない先生方によるアウトプットを大切にしようという姿勢も評価できる。伝統の上に新しい息吹が吹き込まれる可能性もあり、結果に期待したい。 <p>【Global Leaders High School 評価について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般論として、「評価」の目的の一つは、良い意味で切磋琢磨を促すという面があると考えている。もちろん外部評価がすべてではないが、そういう意味では、他の似た環境の高校間での客観的・相対的な評価が向上していることは、素直に歓迎すればよいだろう。 評価の向上は、自習室の提供、土曜講習の全員参加、第2中間考査の導入など、この間の学校の前向きな取組みが、生徒の理解を得て、生徒自身の意識の向上につながっていることの表れだと捉えている。引き続き、生徒たち自身が高津の校訓・校是である“自由と創造”“日新日進”をさらに体現できるよう、一丸となって取り組んでもらいたい。 <p>第2回(12/22)</p> <p>【平成28年度学校経営計画及び学校評価等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校経営計画に基づく取組みは、中期目標・年度重点目標ともに、概ね順調に進んでいるように感じる。引き続き、それぞれの目標達成に向けて、教職員が一体となって取り組んでもらいたい。 スクールマップは、他校に類を見ない素晴らしいものとなっているが、文字の配置やフォントなどを工夫すればさらに良いものとなるだろう。 <p>【記念祭の分割実施について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 来年度は、6月に体育祭を実施することだが、地球温暖化等の影響もあり、これまでの9月体育祭実施は、現実的にはどれだけ準備・対策を施しても、リスクを伴う。体育祭と文化祭を一括で行うという、これまでの形を今後も続けることは困難であり、決断を尊重したい。 一方で、ただ実施時期を変えることにとどまらず、気温の上昇傾向や、梅雨との兼ね合い、さらには定期考査等も考慮して、生徒に負担がかかりすぎず、同時に、できる限りの充実感が得られるよう、慎重に決定していただき、生徒とともに高津の新たな伝統を築いていただきたい。 <p>第3回(3/22)</p> <p>【平成28年度学校評価及び平成29年度学校経営計画(案)について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度学校評価については、自己評価どおり概ねすべての項目で目標値を達成していただいております、教職員の真摯な取組みの成果が表れている。 平成29年度学校経営計画についても、2020年の大学入試改革など、しっかりと将来も見据えた内容となっており、適当である。「働き方改革」等も含めて、社会全体がめまぐるしくまた大きな変化を余儀なくされる中で、新たな取組みを始めることは極めて困難なことだが、学校としての一体感をさらに高め、生徒たちの能力を最大限引き出すことができるよう、効果的・効率的に取り組んでもらいたい。 <p>【大学入試結果(中間報告)について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間報告ということだが、国公立大学への現役合格者数をはじめ、今年度も概ね順調な結果を収めていただいている。 単に、難関・有名大学への進学者数ということにとどまらず、高津高校ならではの「体験型進路学習」などを通じて、それぞれの生徒が自らの適性等に応じた大学選択に基づいて進学先を決定しており、その数以上に大きな成果を挙げている。 <p>【学校教育自己診断結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員向けの質問項目9「本校の生徒指導方針は適切で、すべての教職員に共有されている」は、質問項目の中に2つの内容が入っており、両方をクリアしないと「あてはまる」とは答えにくくなっている。アンケートの主目的は改善にあると思うので、原因が特定できるように質問項目を分けた方がよいのではないかと。 ただ、質問を分けると項目が増えてしまう。「トイレ」についての質問は、生徒への質問項目にあるので、教職員向けの質問から削除してもよいだろう。 教職員向けの質問項目22「本校が行っている教育活動について、中学生や保護者に積極的にアピールできている」に対する肯定的な回答が多くなっている。高津高校の実態をより多くの人に、より良く知っていただくことは重要であり、好ましいことだと思う。何か、改善に努めたのか? <p>⇒大勢の方が参加してくださる「学校説明会」での説明内容・方法を毎年改善していることに加えて、近年、各中学、およびそのPTA等が主催される小規模な説明の依頼が増えてきているが、それらの希望に丁寧に対応していることも一因だと思われる。これらの地道な取組みの成果として、本校の志願倍率も高くなっており、ますます社会の期待に応えることのできる高校へと進化・深化していければと考えている。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力をふまえつつ、高い志を高くくみ、進路実現をめざす取組み	【進路実現に重点を置いた教育課程の再構築】 ア 文理学科2年次の課題探究講座の充実	ア・文理学科2年次の「課題研究（高津LCⅡ）」において、大学等外部機関との新たな連携を進め、より効果的・効率的に生徒の探究心とプレゼンテーション能力の向上を図る。（継続・発展）。また、生徒発表会への普通科生徒の参加を増やし、その成果をより多くの生徒に普及させる。（継続）	ア・文理学科2年生の「課題研究（高津LCⅡ）」に対する満足度（H27：94%）100%をめざす。 ・研究発表分科会への普通科生徒の参加人数（H27：約163人）を150人以上で維持するとともに、参加した生徒の満足度（H27：81%）を80%以上で維持する。	ア・「課題研究（高津LCⅡ）」に対する満足度は92.3%と100%には届かなかったが、外部機関との連携はさらに拡大でき、生徒のプレゼンテーション能力も順調に伸ばすことができた。（○） ・研究発表分科会への参加生徒数は148人、満足度は90.2%と概ね、目標値を達成することができた。（○）
	イ 魅力ある授業等の実施	イ・効果的な補助教材（ICT活用を含む）の開発とともに、教員同士の授業交流と研究協議を一層活発にし、指導技術をさらに高める。（継続・発展） ・授業におけるICTの活用を図る。（継続・充実） ・高大連携事業等をすすみ、大学における学問や研究に対する興味関心を高める。（充実） ・1・2年生全員を対象に英語少人数集中講座を通して、英語コミュニケーション能力を向上させる。また、1・2年生を対象に、実用英語技能検定試験、TOEFLiBT（チャレンジ）等の受検を促進する。（継続・発展） ・土曜講習や補習等の内容をさらに充実させ、生徒の学力を向上させる。（継続・充実）	イ・生徒向け授業アンケートの項目8・9（内容に興味・関心が持てた・知識や技能が身についた）の平均点（H27：3.23／4点満点）を3.2以上で維持する。 ・生徒・教員向け学校教育自己診断の、授業におけるICT活用についての肯定率（H27：生徒87%、教員59%）を、生徒85%、教員60%以上とする。 ・高大連携事業への参加生徒数（H27：1,339）を1,000人以上で維持する。 ・1・2年生全員に実用英語技能検定試験の受験を促し、英検2級合格者（H27：138人）を100人以上で維持する。 ・生徒向け学校教育自己診断での肯定率（H27：75%）を80%以上に高める。	イ・生徒向け授業アンケートの項目8・9の平均点は、3.20と目標を達成した。さらなる向上に努める。（○） ・学校教育自己診断でのICT活用についての肯定率は、生徒90%教員63%と数値目標を達成。さらなる活用と精度の向上に努める。（◎） ・参加生徒数は、1,596人と目標値を大きく超えた。（◎） ・実用英語技能検定試験2級合格者は112人で目標値を達成。（◎） ・生徒向け学校教育自己診断での肯定率は、72%と数値目標に達しなかったものの、生徒の学力向上には一定の効果が見られた。来年度は、より客観的な評価指標とする予定。（△）
	ウ 体験型進路学習の充実	ウ・総合的な学習の時間を活用し、7月と10月に実施する体験型進路学習を通して、進路に対する意欲を高める。（継続・発展） 1年生「職場訪問」 2年生「大学研究室訪問」	ウ・生徒の満足度（H27：92%）を90%以上で維持する。	ウ・体験型進路学習に関する生徒の満足度は93%と数値目標を達成。高津ならではの取組みとしてみますます認知度も高まっている。（◎）
	エ 教育課程の点検	エ・生徒の進路実現をより強く支援する観点から教育課程を再構築する。（充実）	エ・H28年度から導入するTOEFLiBT受験に向けたコース（AEコース）生徒の満足度（新設）85%以上をめざす。 ・生徒向け学校教育自己診断での教育課程に関する肯定率（H27：75%）を75%以上で維持する。	エ・AEコース生徒の満足度（集中度）は86.3%と数値目標を達成。（◎） ・生徒向け学校教育自己診断での教育課程に関する肯定率は69%と、数値目標には達しなかった。生徒（とりわけ1・2年生）には実感しづらい面もあり、来年度は評価指標を再検討する予定。（△）
	オ 行事の再構築	オ 生徒が無理なく、また年間を通じてこれまで以上に継続的・効果的な学習を行えるよう、定期考査をはじめとした行事予定を再整備する。（新規）	オ・生徒・教員向け学校教育自己診断での定期考査をはじめとした行事計画のバランスに関する肯定率（新規）を80%以上とする。	オ・生徒・教員向け学校教育自己診断での行事のバランスに関する肯定率は、それぞれ85%、92%と数値目標を達成。引き続き、バランスの良い効率的・効果的な行事予定を追求する。（◎）

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 豊かな心のはぐくみと規律・規範の確立</p>	<p>【人権尊重と規範意識の向上】 ア 人権尊重精神の育成 イ 社会体験・社会貢献活動の促進 ウ 基本的生活習慣の定着 エ 教育相談体制の充実</p>	<p>ア・学年進行に応じて、計画的に人権尊重の精神を涵養する。(継続・充実) ・SSH事業等を通して、海外の高校生等との交流を促進し、国際理解を促進する。(継続・充実) イ・社会体験・社会貢献活動を促進する。(継続) 東大阪支援学校、視覚支援学校との交流 クラブ員の社会貢献活動「高津キャラバン隊」 高校生フェスティバルでの高齢者との交流 ウ・挨拶の励行と遅刻者数の減少に取り組む。(継続・充実) エ・支援や配慮を要する生徒対象に、スクールカウンセラーによる助言等の機会を通して、生徒及び保護者の悩みの解消に努める。(継続・発展)</p>	<p>ア・生徒・保護者向け学校教育自己診断での肯定率(H27:生徒85%保護者81%)を、80%以上で維持する。 ・生徒・保護者向け学校教育自己診断での満足度(H27:85%)を90%以上に引き上げる。 イ・全クラブが社会体験・貢献活動を年1回以上行う。 ウ・遅刻者数(H27:2,137件)を2,000以下にする。 エ・生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度(H27:75%)保護者の学校への相談に対する満足度(H27:85%「わからない」を除く)を、それぞれ75%・85%以上で維持する。</p>	<p>ア・学校教育自己診断での肯定率は生徒83%、保護者90%で数値目標を達成。継続に努める。(◎) ・学校教育自己診断での肯定率は生徒88%、保護者92%で数値目標を達成。継続に努める。(◎) イ・日常的に活動を行っている全クラブが社会体験・貢献活動を実施。今年度も大きな学びと気づきがあった。(◎) ウ・遅刻者数は、延べ2,329人で、数値目標は達成できなかった来年度、捲土重来を期す。(△) エ・生徒の保健室利用、教育相談に対する満足度は81%で数値目標を達成。保護者の学校への相談に対する満足度は79%と数値目標は達成しなかった。改めて、保護者への啓発を進める。(○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 教職員の資質の向上と学校運営体制の確立</p>	<p>【教師力の育成】 ア 教科指導力の向上 イ 教職員研修の充実 ウ ミドルリーダーや経験の少ない教員の育成(講師を含む) エ 校務のさらなる効率化と情報共有</p>	<p>ア・教員間の授業交流の促進、研究授業・協議を一層活性化させ、さらなる授業力向上に努める。(充実) ・生徒による授業評価(年2回)や授業公開等を実施し、その結果を教員・教科にフィードバックし、授業改善に生かす。(発展・新規) イ・人権や教育相談をはじめ、校内研修や学校外の研修を通して、諸課題に対する理解を深める。(継続・充実) ウ・より効果的・効率的な業務遂行が可能となる、本校らしいヒエラルキーを構築し、計画的なミドルリーダー育成に努める。(継続・充実) エ・学校のさらなる組織的運営を図る。(継続・発展)</p>	<p>ア・生徒授業アンケート全質問の平均値3.2以上を維持し、さらなる向上に努める。 イ・教員向け学校教育自己診断における満足度(H27:77%)を75%以上で維持する。 ウ・教員向け学校教育自己診断における肯定率(H27:53%)を60%以上に引き上げる。 エ・教員向け学校教育自己診断における肯定率(H27:63%)を65%以上に引き上げる。</p>	<p>ア・生徒授業アンケート全質問の平均値は3.22と数値目標を達成。安堵、慢心することなく、さらなる向上に努める。(◎) イ・満足度は79%と数値目標を達成。引き続き、効果的、効率的な研修機会の提供に努める。(◎) ウ・肯定率は75%と大きく数値目標を超えることができた。引き続き、3～5年後を見据え、円滑な教員集団の継承・発展に努める。(◎) エ・肯定率は60%と数値目標に達しなかった。来年度は、分掌間、学年間の情報共有等に、より具体的な方策を講じて、組織的運営の向上に努める。(△)</p>